

令和2年度 薬学部・大学院医学薬学府（薬学領域）「部局長と学生との懇談会」要旨  
テーマ「専門教育における対面授業とメディア授業のベストミックスについて」  
「令和2年度におけるメディア授業のグッドプラクティスについて」

実施日時：令和2年11月18日（水） 16：30～17：30 （1時間）

場所：薬学部大会議室

参加学生数：学部生、大学院生 12名（学部生1～3年生はZOOM）

参加教職員：森部研究院長、伊藤（素）学府長、高野評議員、石橋副研究院長、佐藤教務委員長  
小椋国際交流・留学生委員長、西田学生生活委員長、秋田教務委員会委員

（事務）杉村学務課長、佐藤副課長、渡邊副課長、久保田学務係長、戸谷専門職員、坂本学務係員

大学参加者：教育企画課より2名

① 専門教育における対面授業とメディア授業のベストミックスについて

意見：

- ・1年生は実習や実験はなく、基本的に基礎知識を学習していく講義を中心とした授業が多い。オンデマンド型は映像や資料をもとに何度も復習できるので、そういう面でメディア授業は効果的という意見も一定数あった。1年生は初年次ということもあり、少なくとも週1回は対面での授業形式とし、適宜メディア授業を取り入れたやり方が効果的と判断される。
- ・2年生・3年生は講義中心の授業と実習・実験系の授業がある。実習・実験系がやはり対面を含めた対応をする必要がある。
- ・対面（実習）とメディアの割合は、30：70～50：50位の意見が多かった。授業科目の中でも対話や発表などを含む科目は、対面あるいは同時双方向を取り入れて対応する。オンデマンドで対応可能な科目はオンデマンド中心で対応する。
- ・試験に関しては公平性という面で考えなくてはならない。特に1、2年次の学生は進学振り分けに影響するため、次年度以降は使用する部屋数を増やし対面で試験を行うことができるよう検討する。
- ・実習・実験系は全員が参加できるよう、部屋・時間・器具を増やすなどの対応を今後検討する。DVDあるいはオンデマンドを用いた学習も取り入れ、効率的な実習ができるよう検討する。
- ・事前実務実習は今回自宅でできる体験キットの作成などによる成果が得られた。
- ・大学院生に関しては、メディア授業の方が研究する時間との調整がしやすいという意見が多かった。一方でメディア授業だけだとダレてしまうという意見もあった。大学院はメディア授業・オンデマンド中心でもよいが、外部講師の授業、対話や発表などを含む授業、情報保護などの関係でメディアに残せない授業は、対面や同時双方向で対応する。

## ② 令和2年度におけるメディア授業のグッドプラクティスについて

意見：

### ・分析化学

動画と、スライドのPDF資料だけでなく、動画視聴中にスクリプトを読める動画設定がなされていた。その方が内容をより把握しやすい。

### ・生物化学Ⅱ

生物化学Ⅱの講義で試験に代わる課題が、授業で学んだ範囲のものをテーマとして、小論文を作成するものであった。小論文を作成するのはとても大変で多くの時間を必要としたが、その分テーマに関する知識は人に説明できるほど理解することができ、授業内容を理解できたという点においては対面授業よりも理解を深めることができた。

### ・衛生薬学

教科書を画面共有し、赤字で適宜補足を加えつつ口頭で説明していた。ほぼ対面と変わらないクオリティで非常に分かりやすかった。

### ・事前実務実習

自宅学習キットと動画を用いた自宅学習、実際に対面で行う双方向型のメディア授業により、対面授業と同レベルの実践的な授業を行えるような工夫を行っていた。

Microsoft Teams を用いて、不明点などはいつでも教授に質問できるような環境は整っていた。期限にある程度余裕があるのは助かった。